

第23回 北海道病院学会

THE 23rd HOKKAIDO HOSPITAL ASSOCIATION CONGRESS

未来を見据えた 地域包括ヘルスケア

～医・歯・薬・介護・福祉の連携のあり方～

主なプログラム

- 一般演題
- 基調講演・シンポジウム
- 委員会企画セミナー
- 共催セミナー

日時

2024年7月13日(土)
8:45～18:00

会場

グランドメルキュール札幌大通公園 (旧ロイトン札幌)
札幌市中央区北1条西11丁目 TEL.011-271-2711

■主催／北海道病院協会

■後援／(一社)北海道医師会、(一社)北海道歯科医師会、(公社)北海道看護協会、(一社)北海道薬剤師会、(公社)全日本病院協会北海道支部、日本病院会北海道ブロック支部、(公社)全国自治体病院協議会北海道支部、(一社)北海道老人保健施設協議会、北海道国民健康保険診療施設連絡協議会、北海道慢性期医療協会、(一社)北海道放射線技師会、(一社)北海道臨床衛生検査技師会、(公社)北海道理学療法士会、(公社)北海道作業療法士会、(公社)北海道臨床工学技士会、(公社)北海道栄養士会、(一社)北海道医療ソーシャルワーカー協会、(一社)北海道介護福祉士会、(一社)北海道言語聴覚士会、(特非)日本医師事務作業補助者協会北海道支部、(特非)北海道診療情報管理研究会 (順不同)

協賛企業・医療機関一覧

※お申し込み順

【プログラム集広告】

社会医療法人アルデバラン
ワタキューセイモア株式会社
医療法人社団函館脳神経外科 函館脳神経外科病院
社会医療法人北海道恵愛会 札幌南一条病院
特定医療法人札幌循環器クリニック 札幌循環器病院
社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
医療法人翔陽会 滝川脳神経外科病院
社会医療法人康和会 札幌しらかば台病院
医療法人社団洞仁会 洞爺温泉病院
株式会社 パースジャパン
名寄市立総合病院
社会医療法人北晨会 恵み野病院
社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院
王子総合病院
社会医療法人 製鉄記念室蘭病院
医療法人社団千寿会 三愛病院
社会医療法人 柏葉会
医療法人社団刀圭会 協立病院

社会医療法人医仁会 中村記念病院
社会医療法人医仁会 中村記念南病院
社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生病院
医療法人溪仁会
社会医療法人貞仁会 新札幌ひばりが丘病院
社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院
社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院
社会医療法人博愛会
市立室蘭総合病院
社会医療法人 高橋病院
医療法人砂川慈恵会
医療法人社団清和会 南札幌病院
社会医療法人元生会 森山病院
社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院
医療法人健康会 くにもと病院
社会福祉法人恩賜財団 済生会支部北海道
株式会社竹山
社会医療法人恵和会 西岡病院

【幕間広告】

社会医療法人 柏葉会
社会医療法人 博愛会

【展 示】

オープン株式会社 (旧 RPA テクノロジーズ株式会社)
理想科学工業株式会社
テルモ株式会社
株式会社シーエスアイ
サンコー事務機株式会社
有限会社エム・エフ・シー

【寄 付】

医療法人一誠会 はらだ内科内視鏡健診クリニック


 社会医療法人
アルデバラン
 理事長 齊藤 晋 副理事長 田中 紳太郎
 手稲いなづみ病院 さっぽろ二十四軒病院
 院長 猪股 慎一郎 院長 三好 茂樹
 札幌市手稲区前田3条4丁目2-6 札幌市西区二十四軒2条4丁目7-20
 TEL : 011-685-2200 TEL : 011-641-2281


 健康と快適の明日を考える
ワタキューセイモア株式会社
 ワタキューグループは、「心」を社に
 健康・医療・福祉関連の総合サービスを展開します。
 北海道支店 / 〒047-0198 北海道小樽市新光5-13-3 TEL.0134-54-6525
 旭川営業所 / 〒078-8274 北海道旭川市工業団地4条2-1-25 TEL.0166-36-8866
 函館営業所 / 〒041-0824 北海道函館市西栢根町830-3 TEL.0138-48-1882


 医療法人社団 函館脳神経外科
函館脳神経外科病院
 HAKODATE NEUROSURGICAL HOSPITAL
 24H
 平日 午前 9:00 - 12:00 午後 12:00 - 16:30
 土曜 午前 9:00 - 11:30 午後
 脳神経外科 脊髄末梢神経外科 循環器内科
 理事長：西谷 幹雄 院長：妹尾 誠 副院長：山崎 貴明 分院：七飯クリニック 院長：佐藤 司
 ☎0138-53-6111 函館市神山1丁目4番12号 ☎0138-66-6111 七飯町七飯町本町5-4
 公式サイト <http://www.hnh.or.jp> リンク先 <http://r.hnh.or.jp>


社会医療法人 北海道恵愛会 札幌南一条病院
 札幌市中央区南1条西13丁目317番地1
 ☎011-271-3711
 □診療科目 / 循環器・腎臓内科 呼吸器内科
 消化器内科 リハビリテーション科 内科
 放射線科 人工透析(夜間透析対応)
 各種健康診断(企業健診)人間ドック 血管ドック
 S A S (睡眠時無呼吸症候群)検査


 【診療科】
 循環器内科・消化器内科
 内科・腎臓内科(人工透析)
 人間ドック・健診
 心臓リハビリテーション
 【診療受付時間】
 午前 9時~12時
 午後 2時~5時
 (土曜午後・日曜・祝日休診)
特定医療法人 札幌循環器クリニック
札幌循環器病院
 名誉理事長 若林 央
 理事長 續 雅博
 院長 善岡 信博


 Hakodate Koseiin 社会福祉法人 函館厚生院
函館五稜郭病院
 日本医療機能評価機構認定病院 / 臨床研修指定病院
 地域がん診療連携拠点病院 / がんゲノム医療連携病院
 【各種検診】
 人間ドック、PET がん検診、脳・乳がん検診 他
 函館市五稜郭町38番3号 ☎(0138)51-2295(代表)

医療法人 翔陽会
滝川脳神経外科病院
 ○救急病院(24時間対応) ○病床数 132床
 ○診療科目 / 脳神経外科 脳卒中ケアユニット 8床
 リハビリテーション科 一般病棟 30床
 ○脳ドック(予約制) 回復期リハ病棟 60床
 特殊疾患病棟 34床
 理事長・院長 中垣 陽一
 副院長 村橋 威夫
 副院長 中垣 裕介
 〒073-0044 滝川市西町1丁目2番5号
 TEL 0125-22-0250 / FAX 0125-23-1302
 ホームページアドレス <http://www.takinouge.com/>


日本医療機能評価機構認定病院
 社会医療法人 康和会
札幌しらかば台病院
 理事長 加藤 康夫 院長 後藤 啓
 内科・消化器内科・脳神経内科・循環器内科・整形外科
 リハビリテーション科・リウマチ科・アレルギー科
 札幌市豊平区月寒東2条18丁目7番26号 TEL 011(852)8866
 URL <http://www.kouwakai.or.jp>


 医療法人社団
洞仁会 洞爺温泉病院
 理事長・院長 中谷 玲二

広告をクリックまたはタップ
 していただくと、広告主様の
 HPに移動します。



名寄市立総合病院
Nayoro City General Hospital

事業管理者
和泉 裕一

病院長
真岸 克明

〒096-8511
名寄市西7条南8丁目1番地
TEL 01654-3-3101 FAX 01654-2-0567

社会医療法人 北農会
恵み野病院

理事長 近藤英輔 院長 貝嶋光信

〒061-1395 恵庭市恵み野西2丁目3番地5
(TEL) 0123-36-7555
(FAX) 0123-33-7359
(URL) <http://www.megumino.or.jp>

社会医療法人 孝仁会
釧路孝仁会記念病院

理事長 齋藤 孝次
院長 稲垣 徹

私たちは、みなさまの
健康・医療・介護を信頼と愛情で支えます。

医療法人 王子総合病院

◎理事長 大岩 均 ◎院長 岩井 和浩
◎病床数 440床

〒053-8506 苫小牧市若草町3丁目4番8号
TEL.0144-32-8111 FAX.0144-32-7119
[Http://www.ojihosp.or.jp](http://www.ojihosp.or.jp)

思いやりの心を大切に、安全で信頼される医療の提供をめざす

社会医療法人
製鉄記念室蘭病院

理事長 松木 高雪
病院長 前田 征洋

〒050-0076 室蘭市知利別町1丁目45番地
TEL : 0143-44-4650 (代表) / FAX : 0143-47-4354

～医療・保健・福祉のトータルケア～

特定医療法人社団千寿会
三愛病院

北海道登別市中登別町24番地12

精神科・内科・皮膚科・眼科・リハビリテーション科・歯科

社会医療法人 柏葉会
札幌柏葉会病院
SAPPORO HAKUYOKAI HOSPITAL

2024年12月
札幌リーディング・ビルディング・ビル
NEW OPEN

人と医療と未来をつなぐ
脳神経外科医療に新たな光を

職員募集


旧: 柏葉脳神経外科病院

刀圭会グループ


協立病院

TOUKEIKAI GROUP
KYOURITSU Hospital

広告をクリックまたはタップしていただくと、広告主様のHPに移動します。



社会医療法人
耳鼻咽喉科 **麻生病院**



手稲溪仁会病院
札幌溪仁会リハビリテーション病院
札幌西円山病院
定山溪病院
溪仁会円山クリニック
手稲家庭医療クリニック
医療法人 溪仁会 溪仁会真駒内在宅クリニック

心のぬくもりが伝わる医療を。



社会医療法人 医仁会
中村記念病院
理事長・院長 中村 博彦
札幌市中央区南1条西14丁目 TEL(011)231-8555 FAX(011)231-8385

地域に愛され信頼される医療を南の地で。



社会医療法人 医仁会
中村記念南病院
理事長 中村 博彦
院長 岡 亨治
札幌市南区川沿2条2丁目 TEL(011)573-8555 FAX(011)573-8385

“住みやすい街に必要な地域医療をめざして”

社会医療法人 貞仁会
新札幌ひばりが丘病院
理事長・院長 高橋 大賀
内科・消化器内科・緩和ケア内科・老年内科・漢方内科
整形外科・循環器外科・リハビリテーション科
札幌市厚別区厚別中央3条2丁目12番1号
TEL(011)894-7070

社会医療法人 禎心会
札幌禎心会病院 救急指定病院 (救急24時間受入)
理事長・院長 徳田 禎久

診療科目

■脳神経外科	■神経内科	■消化器内科	■消化器外科
■循環器内科	■心臓血管外科	■頭頸科	■整形外科
■皮膚科	■泌尿器科	■糖尿病内科	■腫瘍内科
■内科	■乳癌外科	■婦人科	■放射線治療科
■放射線診断科	■リハビリテーション科	■形成外科	■ペインクリニック外科
■麻酔科	■病理診断科	■歯科口腔外科	

TEL. 011-712-1131
住所 札幌市東区北33条東1丁目3-1



社会医療法人 平成醫塾
苫小牧東病院
〒053-0054 苫小牧市明野新町5丁目1-30
TEL(0144)55-8811 FAX(0144)55-8822

メディカル、つながる、街つくる。
博愛会
メディカルグループ

社会医療法人 博愛会
開西病院
理事長 細川 吉博
帯広市西23条南2丁目16番地27 ☎0155-38-7200(代)



おもいやりの心がかよう病院です



市立室蘭総合病院
Muroran City General Hospital
病院事業管理者 新井 一
院長 高橋 典之
室蘭市山手町3丁目8番1号
TEL0143-25-3111
<https://www.city.muroran.lg.jp/main/org3400/>

広告をクリックまたはタップしていただくと、広告主様のHPに移動します。

社会医療法人 高橋病院
理事長 高橋 肇



2024年10月 新築移転 開設予定

医療法人
砂川慈恵会病院
Sunagawa Jikeikai Hospital

精神科・内科

院長 上口 権二郎
副院長 宮本 哲男
副院長 白濱 靖幸

砂川市西1条南11丁目2番10号
(0125) 54-2300

医療法人社団
清和会 **南札幌病院**
理事長 服部 紀志子 院長 相川 忠弘

・内科・腎臓内科・糖尿病内科・呼吸器内科・循環器内科
・消化器内科・リハビリテーション科・人工透析・各種健診

〒064-0809
札幌市中央区南9条西7丁目1番23号
電話(011)511-3368 FAX(011)511-1862
URL <http://www.minamisapporo.or.jp>

＜関連施設＞
やまはな訪問看護ステーション ☎(011)511-2896
〒064-0809 札幌市中央区南9条西7丁目1番23号



社会医療法人 **元生会** 理事長 森山 領

森山病院



森山病院 院長 稲葉 雅史
旭川市宮前2条1丁目1番6号
☎(0166)45-2020

森山メモリアル病院 院長 丹野 克俊
旭川市旭町2条1丁目31番地 ☎(0166)55-2000

健康な未来社会を築くお手伝い
交雄会グループ
理事長 三井 慎也

社会医療法人交雄会メディカル 医療法人交雄会

交雄会新さっぽろ病院 院長 渡 二郎
さっぽろ大通り内視鏡クリニック 院長 野村 昌史
生田原診療所 所長 服部 憲尚

そうべつ温泉病院 院長 合地 研吾
2024年11月にJR伊達線駅駅前へ新築移転します。
介護老人保健施設プライムそうべつ
介護老人保健施設プライムいくたはら
グループホーム桜香
グループホームしらかば

www.koyukai-group.jp

切らずに治す

内痔核硬化療法「ALTA療法」は
メスを問わず注射で治療する方法です。

当院の専門医師団が、あなたの太陽と虹門の悩みを解決します。


当院では、延べ 9208 症例に対し、ALTAによる手術手技を施行しております。(2005年1月~2023年3月)

医療法人 体徳会 **くにもと病院**
〒070-0034 旭川市4条5丁目1号
TEL:0166-25-2241 FAX:0166-23-1726
<http://www.kunitomoto-hp.com/>

診療受付時間
■平日 午前9:00~11:30 / 午後2:00~4:30
■土曜 午前9:00~11:30 ■日曜 休診




社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部北海道
済生会小樽病院



Medical Support Service Provider

生命と健康への貢献
「医師、医療スタッフとともに人々の生命と健康を守る」
という創業以来の使命感のもと
社会貢献度の高い仕事と誇りを持ち、日々努力を続けております。

株式会社 竹山
代表取締役社長 土田 拓也
本社 / 〒060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5
☎011-611-0100(代表) <https://www.takeyama.co.jp/>

日本医療機能評価機構認定病院
社会医療法人 恵和会 **西岡病院**
理事長 西澤 寛俊
副理事長 中島 茂夫
院長 五十嵐 知文

【診療科】
内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科
【専門外来】
糖尿病・神経内科

〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条4丁目1-52
Tel. 011-853-8322 FAX 011-853-7975
<http://www.nishioka-hosp.jp/>



広告をクリックまたはタップ
していただくと、広告主様の
HPに移動します。

目 次

学会開催のご挨拶	1
第23回北海道病院学会プログラム	2
研究発表プログラム	5
基調講演	20
パネリスト講演	21
委員会企画セミナー	25
共催セミナー	28

学会開催のご挨拶



特定非営利活動法人 北海道病院協会
理事長 中村 博彦

このたび「第23回北海道病院学会」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本学会は、前身である私的病院学会から通算しますと38回を数える学会で、多くの医療従事者の方々の研鑽の場となっております。

今回のテーマは「未来を見据えた地域包括ヘルスケア ～医・歯・薬・介護・福祉の連携のあり方～」としました。

来年2025年は、団塊の世代の方が75歳以上となることから、高齢者がさらに増大することが予想されています。このため、国では2014年に医療介護総合確保推進法を制定し、2025年を目途に医療と介護を一体的に提供する体制の整備を進めてきました。その根幹である地域包括ヘルスケアシステムは、重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で自立した生活を続けていくことができる体制の構築を目指すものです。本システムは、もう一つの根幹である地域医療構想と互いに補完しながら進めていくことが重要とされており、その実現のために各地域における医療機関が果たすべき役割は、ますます大きなものとなっております。

今回、厚生労働省の社会保障審議会委員として地域医療構想や地域包括ヘルスケアに関する議論に深く関わってこられた産業医科大学医学部教授の松田 晋哉先生をお招きし、「地域包括ヘルスケアにおける病院の役割」について基調講演をいただいた後、道内で地域包括ヘルスケアを実践されている4名の先生方から、各地域の取組をご紹介していただき、ご参加の皆さまとともにこのテーマについて議論を深めてまいりたいと存じます。

本学会では、研究発表において、様々な部門から多岐にわたるテーマで研究や実践に関する発表が行われます。この機会にご専門の分野や関心の高い演題を聴講され、質疑等にも積極的にご参加いただければ幸甚です。

また、今回も企業3社様からご協力いただき、共催（ランチョン）セミナーを開催しますので、是非ご参加下さい。

本学会に参加された皆さまにとって、実りの多い学会となりますことを祈念申し上げます。

第 23 回北海道病院学会プログラム

2024 年 7 月 13 日 (土)

第 1 会場 3 階 ボールルーム A

8:45～8:55	開会式
9:00～11:54	研究発表
13:05～14:19	研究発表
14:45～17:50	<p>【シンポジウム】 未来を見据えた地域包括ヘルスケア ～医・歯・薬・介護・福祉の連携のあり方～ 座長 細川 吉博 北海道病院協会 常務理事</p> <p>【基調講演】 地域包括ヘルスケアにおける病院の役割 講師 松田 晋哉 産業医科大学 医学部 公衆衛生学教室 教授</p> <p>【パネリスト講演】 地域包括ヘルスケアを構築するための情報共有のあり方 ～連携推進に向けた上手な IT 活用方法～ 講師 高橋 肇 社会医療法人 高橋病院 理事長／北海道病院協会 副理事長</p> <p>豊生会の目指す地域とつながり合う連携 ～現状と課題、今後の展開～ 講師 星野 拓磨 社会医療法人豊生会 東苗穂病院 副院長</p> <p>地域包括ケアを支える ICT ～名寄市の取組み～ 講師 守屋 潔 名寄市立総合病院 情報管理センター センター長／名寄市健康福祉部 参与</p> <p>過疎地の小病院が地域で果たす役割 講師 藤城 貴教 日本赤十字社 清水赤十字病院 院長</p>
17:50～18:00	優秀演題表彰式・閉会式

第 2 会場 3 階 ボールルーム B

9:00～11:38	研究発表
12:00～13:00	<p>共催セミナー 株式会社日本経営 講師 中野 敬太 株式会社日本経営 札幌オフィス チームリーダー</p>
13:10～14:40	研究発表

第3会場 3階 ボールルームD

9:00～10:20	委員会企画 医療安全管理者スキルアップセミナー 座長 藤原 雄介 北海道病院協会 常務理事 講師 長谷川 友紀 東邦大学 医学部 社会医学講座 教授
10:30～11:50	委員会企画 病院機能評価受審（更新）支援セミナー 座長 成田 吉明 北海道病院協会 常務理事 講師 橋本 廻生 公益財団法人日本医療機能評価機構 常務理事
12:00～13:00	共催セミナー アッヴィ合同会社 講師 坂本 直哉 北海道大学大学院医学研究院 内科学分野 消化器内科学教室 教授
13:30～14:30	委員会企画 病院経営支援セミナー 座長 中田 智明 北海道病院協会 常務理事 講師 石井 孝宜 石井公認会計士事務所 所長・公認会計士

第4会場 2階 ハイネスホール

9:00～11:28	研究発表
12:00～13:00	共催セミナー オープン株式会社（旧RPAテクノロジーズ株式会社） 講師 村山 典久 一般社団法人メディカルRPA協会 理事
13:10～14:40	研究発表

第5会場 2階 リージェントホール

9:00～11:54	研究発表
13:10～14:40	研究発表

第6会場 2階 クリスタルルームA

9:00～11:56	研究発表
13:05～14:43	研究発表

第23回北海道病院学会 プログラム時間割

	第1会場 3階 ボールルームA	第2会場 3階 ボールルームB	第3会場 3階 ボールルームD	第4会場 2階 ハynesホール	第5会場 2階 リージェントホール	第6会場 2階 クリスタルルームA
時間						
8:30	8:45～開会式					
9:00	一般演題 セッション1 演題1～6 9:00～9:48 看護	一般演題 セッション7 演題31～35 9:00～9:40 看護、介護、福祉	委員会企画 9:00～10:20 医療安全 スキルアップセミナー	一般演題 セッション13 演題61～66 9:00～9:48 看護、リハビリ 栄養、給食、その他	一般演題 セッション18 演題90～94 9:00～9:40 看護、リハビリ	一般演題 セッション24 演題122～125 9:00～9:32 リハビリ
9:30	一般演題 セッション2 演題7～10 9:50～10:22 その他、リハビリ、看護	一般演題 セッション8 演題36～39 9:42～10:14 看護、その他		一般演題 セッション14 演題67～72 9:50～10:38 事務、医師事務作業補助者、 その他	一般演題 セッション19 演題95～99 9:42～10:22 リハビリ	一般演題 セッション25 演題126～129 9:34～10:06 リハビリ
10:00	一般演題 セッション3 演題11～16 10:24～11:12 看護	一般演題 セッション9 演題40～44 10:16～10:56 看護	委員会企画 10:30～11:50 委員会企画 病院機能評価受審 (更新)支援セミナー	一般演題 セッション15 演題73～78 10:40～11:28 医師、その他	一般演題 セッション20 演題100～105 10:24～11:12 看護、リハビリ	一般演題 セッション26 演題130～133 10:08～10:40 看護、リハビリ、リハビリカ-
10:30	一般演題 セッション4 演題17～21 11:14～11:54 看護、薬剤	一般演題 セッション10 演題45～49 10:58～11:38 看護、その他		一般演題 セッション21 演題106～110 11:14～11:54 リハビリ	一般演題 セッション27 演題135～137 10:50～11:14 薬剤	一般演題 セッション28 演題138～142 11:16～11:56 診療放射線、臨床検査
11:00						
11:30						
12:00		共催セミナーⅠ 12:00～13:00 株式会社日本経営	共催セミナーⅡ 12:00～13:00 アッピィ合同会社	共催セミナーⅢ 12:00～13:00 オープン株式会社		
12:30						
13:00	一般演題 セッション5 演題22～26 13:05～13:45 看護	一般演題 セッション11 演題50～55 13:10～13:58 看護、リハビリ、 介護、福祉、その他	委員会企画 13:30～14:30 病院経営支援セミナー	一般演題 セッション16 演題79～83 13:10～13:50 看護、介護、福祉、リハビリ	一般演題 セッション22 演題111～116 13:10～13:58 看護、リハビリ	一般演題 セッション29 演題143～148 13:05～13:53 診療放射線
13:30	一般演題 セッション6 演題28～30 13:55～14:19 栄養、給食	一般演題 セッション12 演題56～60 14:00～14:40 看護		一般演題 セッション17 演題84～89 13:52～14:40 リハビリ	一般演題 セッション23 演題117～121 14:00～14:40 看護、臨床検査、臨床工学	一般演題 セッション30 演題149～154 13:55～14:43 リハビリ、診療放射線、 診療情報管理
14:00						
14:30						
15:00	基調講演 14:45～15:45 シンポジウム 15:45～16:45 ディスカッション 16:50～17:50					
15:30						
16:00						
16:30						
17:00						
17:30						
18:00	17:50～表彰式・閉会式					

研究発表プログラム

※ 所属・部署等については、抄録提出時の記載のまま掲載しています。

第1会場

セッション1 看護

9:00～9:48

座長 赤澤 淑恵 医療法人秀友会 札幌秀友会病院 看護部 副看護部長

- 1 看護 皮膚ケア
褥瘡予防ケアにおける看護師の意識調査から得られた今後の課題
吉田 梨穂 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 障害者病棟
- 2 看護 急性期
内服管理方法決定に関する看護師の意識変化 内服管理アセスメントシートを作成して
赤川 和泉 社会医療法人 北海道循環器病院 循環器内科棟
- 3 看護 回復期
認知症マフ導入による効果と看護師の意識変化
安宅 麻生 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 回復期リハビリテーション病棟
- 4 看護 予防医学
ナッジ理論を活用した目標記入シートを導入して ～第4期特定保健指導実施に関して～
川島 夕里奈 社会医療法人博愛会 開西病院 健診センター
- 5 看護 急性期
外来看護師の電話相談における患者状態の把握方法について
加藤 浩美 社会医療法人 北海道循環器病院 外来
- 6 看護 チーム医療・協働
身体抑制解除に向けた取り組み ～チェック表の導入～
福士 奈津美 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 回復期リハビリテーション病棟

セッション2 看護・リハビリテーション・その他

9:50～10:22

座長 前田 孝則 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 手術室 係長

- 7 感染対策・感染管理
A病院 COVID-19 事務部門の取り組み ～感染対策の質の向上をめざして～
宮嶋 千尋 公益社団法人北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 感染制御室
- 8 感染対策・感染管理
感染対策強化によるリハビリテーション科職員の心理的負担の調査
工藤 篤志 医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 リハビリテーション科
- 9 感染対策・感染管理
マットレス変更後の評価 ～予想しなかった数々のメリット～
大川 美和 社会医療法人北腎会 坂泌尿器科病院 透析室
- 10 その他 感染症管理
COVID-19陽性病棟で行った看護ケアを振り返る
～限られた環境下でもよりよい看護を実践していた私たち～
杉谷 恵 社会医療法人恵和会 西岡病院 急性期一般病棟

座長 中川 尚美 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道 済生会小樽病院 看護部 次長

- 11 患者満足度
術前患者の入退院支援に案内用紙を用いた効果
～最高のホスピタリティを目指して～
小松 恵子 医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 外来
- 12 医療の質
外来における入院案内方法改善への取り組み ～動画の活用を試みて～
佐藤 貴美子 社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生北見病院 外来
- 13 医療の質
全症例術前訪問を目指した取り組み
島本 唯 社会医療法人博愛会 開西病院 手術室
- 14 急性期
周術期に着目し、術後訪問導入看護師の意識にもたらした影響 -外来・手術室兼務の中-
入澤 きぬ 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 看護部 外来・手術室
- 15 急性期
人生最大のイベントを二人三脚で乗り越える ～早期介入・完全受け持ち制度の導入～
小林 翼 医療法人社団函館脳神経外科 函館脳神経外科病院 手術室
- 16 患者満足度
下肢疾患クリニカルパスにおける患者満足度調査
須藤 絢支郎 医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 看護部 急性期病棟

座長 長山 麗香 医療法人溪仁会 手稻溪仁会病院 看護部 看護師長

- 17 地域包括ケア
地域包括ケア病棟における意思決定と円滑な退院支援への取り組み
『受け持ち患者シート』の効果と役割
花輪 志穂 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 地域包括ケア病棟
- 18 地域包括ケア
退院支援カンファレンスの質向上に向けた取り組み
～実施率の向上と医療的課題を時間軸で検討できるまで～
東 愛瑠 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 地域包括ケア病棟
- 19 地域包括ケア
地域包括ケア病棟運営に関する今後の課題
これまでの取り組みを振り返って見えてきたこと
木村 悟史 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 地域包括ケア病棟
- 20 地域包括ケア
地域包括ケア病棟における多職種カンファレンスの実践と展望
山下 正剛 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 看護部
- 21 地域包括ケア
薬・薬連携のための地域包括ケアシステム構築を見据えた病棟業務
小笠原 直子 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 薬局

座長 橋本 憲之 医療法人社団洞仁会 洞爺温泉病院 看護部長

22 医療の質

児の栄養方法別による産後うつの違い

谷口 月菜 医療法人王子総合病院 産婦人科病棟

23 皮膚ケア

美肌水とワセリン併用によるスキンケアの効果

大西 瑠海 特定医療法人社団千寿会 三愛病院 療養病棟

24 皮膚ケア

高齢者のドライスキンを改善する効果的な入浴時間の検証

斉藤 ゆかり 医療法人交雄会 そうべつ温泉病院 介護医療院

25 その他（人工呼吸器の呼吸ケア）

人工呼吸器装着患者に対する肺理学療法の有効性について

秦泉寺 謙太朗 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 障害者病棟

26 慢性期

糖尿病療養指導の取り組み 患者の行動変容に繋がった一事例

沼田 優子 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院

座長 合地 研吾 医療法人交雄会 そうべつ温泉病院 病院長

27

発表中止

28 地域包括ケア

食べたい気持ちを引き出すために ～地域包括ケア病院での試み～

藪本 裕香 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 栄養管理室

29 チーム医療・協働

褥瘡患者への栄養補助食品の使用経験 ～NSTの関わりと課題～

古川 優妃 社会医療法人博愛会 開西病院 栄養科・NST

30

発表中止

第2会場

セッション7 看護・介護福祉

9:00～9:40

座長 蝦名 亜希子 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 看護部長

31 患者満足度

顎骨形成術オリエンテーションの充実を図る
～退院後の生活へのスムーズな復帰を目指して～

金沢 里実 社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生病院 看護部

32 精神

認知症患者におけるパーソン・センタード・ケアを用いた排泄ケア
-排泄ケアに意思決定を取り入れて-

沼田 美由紀 医療法人社団五風会 さっぽろ香雪病院

33 患者満足度

おむつ使用患者の排泄ケア向上を目指した取り組み ～介護福祉士による「適切なおむつ
の当て方」チーム活動～

熊谷 かおり 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 地域包括ケア病棟

34 医療・協働

プロトコルを活用した速やかで安全な食事提供のための取り組み

山田 瞳 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 看護部

35 医療・協働

慢性期病院の看護師特定行為における手順書の現状と課題

佐藤 京子 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 看護介護部

セッション8 看護・その他

9:42～10:14

座長 伊波 久美子 砂川市立病院 集中治療室 看護師長

36 精神

精神科急性期閉鎖病棟の携帯電話自己管理への患者の思いと現状
患者の世代の差に注目して

西山 春菜 医療法人社団 五稜会病院

37 精神

パニック症患者に対して家族支援を併用し奏功した症例

広瀬 慎一 医療法人社団 五稜会病院 心理室

38 精神

地域生活への不安が強い長期入院患者の意識変化に関わる要因

藤嶋 拓海 医療法人社団 五稜会病院 開放療養病棟

39 精神

メンタルクリニック初診患者の負担軽減をめざして ～問診票改善を行った一考察～

佐々木 剛 社会医療法人函館博栄会 函館渡辺病院附属ゆのかわメンタルクリニック

座長 黒瀬 美里 社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 外来 看護課長

40 教育・研修

看護師特定行為研修修了者の現状と課題

森河 琴美 医療法人溪仁会 法人本部 看護師特定行為研修センター

41 教育・研修

病棟における継続教育体制の再構築に向けて ～意図的な教育を継続させるために～

池田 のぞみ 社会医療法人医仁会 中村記念南病院 看護部

42 教育・研修

コロナ禍における新人看護師育成の課題

西森 麻衣子 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院

43 教育・研修

チームで急変対応ができる教育体制の構築

中川 史恵 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 看護部

44 教育・研修

新人教育における統一した指導方法への取り組み ～新人教育の体制と業務の見直し～

長谷川 彩咲 社会医療法人 高橋病院 看護部

座長 浅野 友和 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 透析室 主任

45 教育・研修

新入職員を育てる風土作りへの取り組み ～New Faceマークを導入して～

笹谷 東美 医療法人社団函館脳神経外科 函館脳神経外科病院 看護部

46 教育・研修

オンライン回答を活用した院内研修による時間対効果

鷲見 ともえ 医療法人社団刀圭会 協立病院 医療安全管理課 ICT

47 教育・研修

看護師用薬剤情報検索システムの作成とその効果

～今すぐ必要な情報を調べる時間を減らす～

藤岡 和典 社会医療法人医仁会 中村記念南病院 急性期病棟

48 教育・研修

外国人技能実習生との異文化コミュニケーション

～「はい」の返事に対する看護補助者の認識と行動～

大東 久美子 社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 急性期・地域包括ケア病棟

49 教育・研修

一般病棟におけるACPの取り組み ～現状把握とこれからの課題～

野尻 昌子 社会医療法人恵和会 西岡病院 急性期一般病棟

座長 新野 さゆり 医療法人健康会 くにもと病院 看護部長

50 教育・研修

研修参加率向上に向けた取り組み ～動画を使った研修の導入～

松井 夏美 医療法人社団洞仁会 洞爺温泉病院 介護医療院なのはな

51 教育・研修

当院における心不全ワーキンググループの取り組み
心不全研修会終了後のアンケート調査

地主 隆文 社会医療法人貞仁会 新札幌ひばりが丘病院 薬剤部

52 教育・研修

当院セラピストが退院支援で感じている課題の分析

種村 洋二 医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院

53 職員満足度

リハビリテーション職員の労働生産性の現状と、関連因子の検討

古川 利裕 社会医療法人博愛会 開西病院 リハビリテーション科

54 職員満足度

当院における外来看護師のストレス調査、対処方法について
ストレスコーピング、アンガーマネジメント

廣瀬 由美子 社会医療法人博愛会 開西病院 看護介護部 外来

55 慢性期

病棟スタッフの環境整備に対する意識調査と感性を高める取り組み

斉藤 優 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 慢性期病棟

座長 藤井 菊乃 医療法人交雄会 そうべつ温泉病院 看護師長

56 教育・研修

より良い終末期ケアを目指して
～終末期の患者様に関わる際の不安の明確化と対処法の検討～

川田 悦子 社会医療法人恵和会 恵庭第一病院 急性期一般病棟

57 緩和ケア

話を聴いてもらった心が癒された
～緩和ケア病棟における症例報告会がもたらしたカタルシス効果～

佐々木 喬 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 緩和ケア病棟

58 緩和ケア

痛みと倦怠感の調整で迎えられた誕生日
ミダゾラム注の単回皮下注射使用で倦怠感を軽減できた一症例

丸山 千恵 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 緩和ケア病棟

59 緩和ケア

アロマ療法を用いた術前の不安緩和に向けた関わり

荒谷 友麻 医療法人社団函館脳神経外科 函館脳神経外科病院 急性期病棟

60 緩和ケア

当院から在宅へ移行した患者・家族の特性

丸岡 三千代 医療法人為久会 札幌共立五輪橋病院 看護部

第4会場

セッション13 看護・リハビリテーション・栄養 給食・その他

9:00～9:48

座長 永田 学 社会医療法人恵和会 西岡病院 副院長

61 チーム医療・協働

多職種で取り組む排便コントロール 排泄日誌を活用した情報共有
工藤 茜 社会医療法人文珠会 亀田花園病院 栄養科

62 チーム医療・協働

診療科が異なる医師によるグループ診療と多職種連携の取り組み
～多職種でのカンファレンスによる意思決定の推進～
堀 心紀 公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院 リハビリテーション課

63 チーム医療・協働

筋萎縮性側索硬化症患者の意向と病状を考慮した介入の困難さ
～多職種連携をリハビリテーションの視点から～
高田 一史 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 リハビリテーション部

64 回復期

退院支援における看護師の役割と多職種のあり方
～患者、家族への退院支援に難渋した症例を通して～
阿達 望美 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 回復期リハビリテーション病棟

65 回復期

看護師とセラピストが協働した入浴自立支援の取り組み
中川 葉月 社会医療法人医仁会 中村記念病院 看護部 回復期リハビリテーション病棟

66 チーム医療・協働

当院における院内救命士の現況 ～法改正から2年、見えてきた課題～
井沼 浩政 医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 救急センター 救急救命士

セッション14 事務・医師事務作業補助者・その他

9:50～10:38

座長 薄井 智也 社会医療法人耳鼻咽喉科麻生 耳鼻咽喉科麻生病院 事務次長

67 地域包括ケア

病棟転換による入院単価アップ ～DPCから地域包括ケアへ～
中野 貴史 医療法人健康会 くにもと病院 医事課

68 ITシステム

食事箋データ連動システム開発
電子カルテと栄養管理システムとの食事箋データ連動システム開発
横山 光 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院 情報管理部

69 チーム医療・協働

病棟クランク業務の見直しについて
中村 健 社会医療法人高橋病院 医事課

70 医師事務作業補助

医師事務作業補助者活用の医師・看護師のタスクシフトの可能性
～メディカルクラークから医師事務作業補助者へ～

渡部 友香 社会医療法人 札幌清田病院 看護部

71 ITシステム

当院におけるRPA導入事例について

森田 昌宏 社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 医療情報課

72 その他（入退院支援）

入退院支援室の再構築に向けた取り組み ～専門性を活かした支援に向けて～

千葉 俊介 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 入退院支援室

セッション15 医師・その他

10:40～11:28

座長 和泉 裕一 名寄市 病院事業管理者

73 慢性期

慢性期脳卒中患者に対するポリファーマシーへの対応

津田 宏重 社会医療法人博愛会 開西病院 脳神経外科

74 地域包括ケア

地域包括ケア病院の役割とは？

松永 隆裕 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 内科

75 医療技術

多様性に対応する生活習慣病治療 ～還元論的治療から構成論的手法へ～

松永 隆裕 社会福祉法人ノテ福祉会 日本医療大学病院 内科

76 経営・施設管理

再び経営危機？—士別市立病院の経営改革について(第7報)

長島 仁 士別市立病院 医局

77 その他（働き方改革）

医師の時間外労働時間削減により診療行為は負の影響を受けるか？

森下 清文 市立函館病院

78 災害・救助活動

院内救命士の活用 ～石川県能登半島地震でのDMAT派遣を経験して～

井沼 浩政 医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 救急センター 救急救命士

セッション16 看護・リハビリテーション・介護福祉

13:10～13:50

座長 井上 勲 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 神経リハビリテーション部長

79 その他（転倒と歩行データとの関連性）

当施設における転倒者のAYUMIEYEデータの特徴について

伊藤 星一 社会医療法人博愛会 開西病院 介護老人保健施設あかしや 診療技術部 リハビリテーション科

80 医療安全

当院の転倒・転落発生状況の年次推移とその特徴について
転倒転落発生率と損傷率についての考察

村田 諒 医療法人社団 ふらの西病院 リハビリテーション課

81 医療安全

当院リハビリテーション部におけるインシデントの傾向について
～経験年数との相関と好発時期について～

秋山 翔大 社会医療法人文珠会 亀田病院 リハビリテーション部

82 医療安全

当院におけるDNARの意識調査から見てきたもの
～DNARの正しい理解とその対応の検討～

宮本 直武 土別市立病院 診療技術部 診療放射線科 兼医療安全管理室

83 地域包括ケア

当院における入院機能関連障害の現状と危険因子の検討

赤倉 治 医療法人歓生会 豊岡中央病院 診療部 リハビリテーション課

セッション17 リハビリテーション

13:52～14:40

座長 脊戸 英臣 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 リハビリテーション部 部長

84 地域医療連携

回復期リハビリテーション病院における地域貢献活動の取り組み
～病院から町内会に医療の出前～

千田 芳明 社会医療法人 高橋病院 リハビリテーション科

85 地域包括ケア

当院入院患者の現状からみるリハビリテーション室の役割について

小笠原 佳央 社会福祉法人 ノテ福祉会 日本医療大学病院 リハビリテーション室

86 経営・施設管理

攻めるは、豊平区!?

市場調査や居宅向けアンケートから分析した訪問リハ戦略について

千葉 瑛斗 医療法人溪仁会 定山溪病院 リハビリテーション部

87 在宅

当事業所訪問リハビリテーション利用者の生活空間調査 ～人との繋がりに着目して～

永瀬 将太 社会医療法人文珠会 亀田病院 訪問リハビリテーション亀田

88 在宅

連携シートの活用による在宅への意識変化の調査

橋本 一希 社会医療法人元生会 森山メモリアル病院 指定訪問リハビリテーション事業所

89 地域医療連携

同一市内病院連携による施設等入所基準情報の共有の取り組み

寺田 志保 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 地域医療連携課

第5会場

セッション18 看護・リハビリテーション

9:00~9:40

座長 工藤 章 医療法人秀友会 札幌秀友会病院 リハビリテーション科 科長補佐

90 慢性期

当院神経難病患者の主観的QOL調査から見えてきたもの

山口 翔平 医療法人溪仁会 定山溪病院 作業療法科

91 患者満足度

好きなドラマが見たい！ -進行性疾患患者に対するOT-

高橋 茉央 医療法人溪仁会 札幌西田山病院 リハビリテーション部

92 医療技術

在宅酸素療法実施患者における呼吸同調器使用有無の比較

瀬戸 素代花 社会医療法人恵和会 西岡病院 リハビリテーション科

93 チーム医療・協働

患者のQOL向上に繋がる多職種での取り組み ~個別性のある見守りケアの実践~

鎌田 志穂 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 地域包括ケア病棟

94 医療の質

想いを尊重した生活介助の中で安全を守るための取り組み

那須 隆之 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 医療療養病棟

セッション19 リハビリテーション

9:42~10:22

座長 鳥本 陽介 社会医療法人博愛会 開西病院リハビリテーションセンター リハビリテーション科 係長

95 回復期

重度運動麻痺、Pusherを呈した症例が在宅復帰した一例

八熊 祐太 医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 リハビリテーション室

96 回復期

Mixed Realityを用いた介入について

佐々木 真史 社会医療法人 平成醫塾 苫小牧東病院リハビリテーション部

97 在宅

rTMS治療入院によりADLでの麻痺手の参加が向上した症例 ~高補助手から実用手へ~

仁木 亜美 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 リハビリテーション部

98 地域包括ケア

橋出血後6か月経過した症例に対するリハビリテーションの報告

坂部 雄大 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 リハビリテーション科

99 回復期

脳血管疾患重症患者の日常生活機能評価とFIMの改善要因の検討

当院回復期リハビリテーション病棟の現状について

鈴木 康太 医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院

座長 佐藤 大輔 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 リハビリテーション室 主任

100 回復期

当院回復期リハビリ病棟の歩行自立支援に向けた体制整備
～歩行自立判定チェックリストの後方視的検討～

坪内 琢 医療法人秀友会 札幌秀友会病院 リハビリテーション科

101 回復期

車椅子移乗自立の指標とカットオフ値の検討

菅原 董 社会医療法人医仁会 中村記念南病院 医療技術部 理学療法科

102 予防医学

当院オリジナル体操を継続的に実施後ロコモ度が改善した症例

アルテス 阿鈴 医療法人歓生会 豊岡中央病院 診療部 リハビリテーション課

103 回復期

回復期リハビリ病棟における患者の意欲と看護実践について
～アパシー・抑うつ状態とFIMの変化について～

栗田 良一 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 回復期リハビリテーション病棟

104 予防医学

当院リハビリテーション科におけるリエゾンサービスの取り組み
立ち上げから1年を振り返って見えてきた課題

中川 知史 社会医療法人博愛会 開西病院 リハビリテーション科

105 精神

グループダイナミクスを活用した飲食に関する心理教育の実践

野上 華歩 特定医療法人社団千寿会 三愛病院 精神科デイケア

座長 脇本 之博 医療法人 王子総合病院 リハビリテーション科 科長

106 医療技術

BMI利用による手指電動装具の適応可能性
～重症度の異なる脳卒中後運動麻痺者への使用から～

畑山 祐太 医療法人秀友会 札幌秀友会病院 リハビリテーション科

107 医療技術

BMI利用による手指電動装具使用後の手指筋活動パターンの影響
～代償運動の低減を得た脳卒中患者の一症例～

古谷 瑠璃 医療法人秀友会 札幌秀友会病院 リハビリテーション科

108 医療技術

拡散型圧力波治療による脳卒中患者の上肢痙縮治療効果の検討

川口 聡 社会医療法人医仁会 中村記念病院 リハビリテーション部 作業療法科

109 回復期

持続的電気刺激法により麻痺手の浮腫に改善がみられた症例

河部 将幸 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院

110 回復期

当院の脳卒中後手指運動麻痺に対するステップアップ練習について
～BMI・ロボット・神経筋電気刺激を用いた取り組みについて～

高橋 良輔 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部

座長 小山 昭人 医療法人交雄会 そうべつ温泉病院 リハビリテーション科 科長

- 111 予防医学
小学生サッカー選手の靴のフィッティングとバランス能力の関係
佐藤 郁也 医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 リハビリテーション科
- 112 その他（自動車運転支援）
当院における脳血管疾患後の自動車運転評価の取り組みについて
～ドライブシミュレーターと実車評価の実際～
齊藤 雄一郎 IMSグループ 医療法人社団 明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院
- 113 回復期
複合現実を用いて リーチ動作が向上した症例
佐藤 翼 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 リハビリテーション部
- 114 急性期
退院時の装具装着の有無が術後肩関節機能に与える影響について
-肩関節腱板修復術後3ヶ月の比較-
大友 颯一郎 社会医療法人博愛会 開西病院 リハビリテーションセンター
- 115 慢性期
拘縮予防のポジショニングに対する病棟スタッフの意識の変容
村越 直美 社会医療法人医仁会 中村記念病院 慢性期病棟
- 116 回復期
より質の高い回復期を目指して ～クリニカルパスの導入～
小川 健太郎 社会医療法人博愛会 開西病院 リハビリテーションセンター

座長 鈴木 順子 社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 病棟 看護師長

- 117 医療技術
下肢静脈エコーで深部静脈血栓症と診断された患者の臨床的検討
北口 真弓 社会医療法人柏葉会 柏葉脳神経外科病院 検査科
- 118 医療技術
VAエコーを通しCEがPTAの直接介助に参入することの有用性
那須 治 社会医療法人北腎会 坂泌尿器科病院 臨床工学科
- 119 その他（コスト削減・業務効率）
透析用監視装置統一に伴う新規血液回路導入について
透析用監視装置統一がコスト・業務効率に与える影響
宮谷 拓弥 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 診療技術部 透析室
- 120 その他(症例報告)
減圧症患者に対する第一種装置での高気圧酸素治療例
合田 智香 社会医療法人医仁会 中村記念病院 臨床工学科
- 121 慢性期
血液透析患者における腹部大動脈石灰化および動脈硬化に関する検討
福島 亮 社会医療法人北海道恵愛会 札幌南一条病院

第6会場

セッション24 リハビリテーション

9:00~9:32

座長 野本 洋輔 社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 リハビリテーション部 課長

122 医療技術

当院でのMASAの有用性の検討と導入について

五十嵐 悠 社会医療法人文珠会 亀田病院 リハビリテーション部

123 回復期

VFのモニタリングが効果的となり経口摂取が可能となった症例

渡部 春佳 社会医療法人医仁会 中村記念病院 リハビリテーション部

124 回復期

嚥下障害患者に対する電気刺激療法への当院の取り組み

松本 誠 社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院 リハビリテーション部

125 慢性期

摂食嚥下障害患者に対する退院時支援の取り組み

柏村 康平 社会医療法人慈恵会 聖ヶ丘病院 リハビリテーションセンター

セッション25 リハビリテーション

9:34~10:06

座長 稲垣 就平 社会医療法人医仁会 中村記念病院 言語療法科 係長

126 在宅

歯科との連携で見えてきた訪問STの役割とは

嚥下評価を基に歯科受診の提案を行った13名を振り返り

太田 快成 医療法人溪仁会 定山溪病院

127 在宅

もう一度食べられる!を見極める在宅での嚥下評価ポイントとは
～経口摂取可能となった4事例への訪問STの関わり～

佐賀 友美 医療法人溪仁会 定山溪病院 訪問リハビリテーション科

128 医療技術

「ゼリー」と「とろみ」における喉頭侵入や誤嚥の比較

林 まや 社会医療法人恵和会 西岡病院 リハビリテーション科

129 回復期

当院モーニングケアの効果検証 ～経過報告と取り組みについて～

山川 慎司 社会医療法人文珠会 亀田病院 リハビリテーション部

セッション26 看護・リハビリテーション・ソーシャルワーカー

10:08~10:40

座長 池田 江利子 社会医療法人交雄会メディカル 交雄会新さっぽろ病院 看護師長

130 回復期

整形外科骨折患者における、認知機能がFIMに及ぼす影響

須貝 裕一 医療法人社団刀圭会 協立病院 リハビリテーション部

131 その他（老健における集団レク）

認知症高齢者における集団レク介入の治療効果について

早坂 直子 社会医療法人博愛会 開西病院 介護老人保健施設あかしや 診療技術部 リハビリテーション科

研究発表プログラム

132 地域包括ケア

合同認知症カフェのつながりがもたらした効果

ポストコロナにおける認知症カフェの在り方とは

三野 恭兵 医療法人溪仁会 札幌西円山病院 つながる地域サポート部

133 その他（認知症ケア）

認知症高齢者に対する末梢ルート自己抜去予防の取り組み

チューブ包帯を使用した効果

斉藤 研太 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 看護部 急性期病棟

セッション27 薬剤

10:50~11:14

座長 中川 智文 社会医療法人北腎会 坂泌尿器科病院 薬剤科 科長

134

発表中止

135 慢性期

維持透析患者における早朝低血糖が頻発した症例

それに対する原因の推測とステロイド投与の検討

篠永 由美 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 薬剤部 薬剤科

136 医療の質

札幌禎心会病院における睡眠薬の適正使用に向けた取り組み

渡部 正太 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 薬剤部

137 チーム医療・協働

当院における持参薬管理

川代 真子 社会医療法人孝仁会 札幌孝仁会記念病院 薬剤部

セッション28 診療放射線・臨床検査

11:16~11:56

座長 大平 保明 社会医療法人元生会 森山病院 放射線部 係長

138 医療技術

一般撮影におけるFNCによる低コントラスト分解能の客観的評価

清水畑 怜 社会医療法人医仁会 中村記念病院 医療技術部 放射線診断科

139 医療技術

MRI手関節撮像固定具の作成 ～患者様にやさしい検査をめざして～

手嶋 寿宏 医療法人歓生会 豊岡中央病院 放射線課

140 医療技術

閉所恐怖症患者に対するMRIの撮像法の検討

小川 七愛 社会医療法人医仁会 中村記念病院 医療技術部 放射線診断科

141 医療の質

インテリジェントグリッドとリスホルムグリッドの比較

X線入射角度の影響について

小川 秀樹 社会医療法人アルデバラン 手稲いなづみ病院 診療技術部 放射線科

142 医療技術

片側顔面痙攣のMVDで顔筋と眼輪筋を同時に測定する意義

前田 楓 社会医療法人医仁会 中村記念病院 臨床検査科

座長 長崎 尊 社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療部 放射線科 診療放射線技師

143 医療安全

散乱線防護カーテンの有用性と使用方法の違いによる被ばくの検証

折野 郁恵 医療法人豊和会 新札幌豊和会病院 放射線科

144 医療技術

頭部CTAにおける再現性のある撮影と被ばく線量低減の試み

岩代 蓮 社会医療法人医仁会 中村記念病院 医療技術部 放射線診断科

145 医療技術

機器的要因による再撮影の原因分析と改善

佐々木 洗一 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院

146 医療の質

ハイブリッドオペ室での被ばく低減の試み

宮本 裕輔 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院

147 教育・研修

超音波検査の精度管理への取組について

江崎 奈緒 社会医療法人博愛会 開西病院 診療技術部 放射線科

148 医療技術

Bone Like Imageの最適な撮像条件について

後藤 啓佑 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 放射線科

座長 高地 宏修 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 画像診断科 室長

149 予防医学

X線と超音波画像診断装置での肩峰骨頭間距離の相関関係

小野瀬 綜 医療法人社団悠仁会 羊ヶ丘病院 通所リハビリテーション科

150 チーム医療・協働

STATをより身近に活用してもらうために ～ RT for DR ～

重政 響 医療法人社団 土田病院

151 チーム医療・協働

当院の放射線技師の新たな取り組み ～乳がん検診受診率向上に向けて～

平尾 愛 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 放射線課

152 チーム医療・協働

放射線科領域のタスクシフト・シェア実践

三木 佑輔 社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 放射線部

153 医療技術

穿刺業務における診療放射線技師の取り組み

白神 美柚 社会医療法人ピエタ会 石狩病院 放射線課

154 チーム医療・協働

AIを用いた胸部X線遠隔画像診断の当院における運用経験

～診療情報管理課と放射線科の協働～

長崎 尊 社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療部 放射線科

座長 細川 吉博 北海道病院協会 常務理事

基調講演

地域包括ヘルスケアにおける病院の役割

松田 晋哉

産業医科大学 医学部 公衆衛生学教室 教授



高齢化に伴い、医療・介護・生活の複合ニーズを持った患者が増加している。高齢患者の入院治療の前後には患者の生活がある。そして、この患者の生活状況が、医療サービスの内容や入退院時の調整に大きな影響を持つようになっている。したがって、病院は、患者の生活に配慮することを求められているのである。それは単なる医療的なサービスだけでなく、介護や生活全般の支援サービスの提供になる。経営面から考えれば、病院にとってそれは新しいサービスの創出につながるのである。

講師プロフィール

【略歴】

- 1985年 産業医科大学 医学部 卒業
- 1992年 フランス国立公衆衛生学校 卒業
- 1993年 京都大学 博士号（医学）取得
- 1999年3月 産業医科大学 医学部 公衆衛生学 教授
- 専門領域：保健医療システム論

【所属学会】

日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本衛生学会、日本医療・病院管理学会

【受賞歴】

- 2018年 第70回保健文化賞受賞

【主要著書】

- 1 基礎から読み解くDPC第3版（2011），医学書院
- 2 医療の何が問題なのかー超高齢社会日本の医療モデル（2013），勁草書房
- 3 欧州医療制度改革から何を学ぶか超高齢社会日本への示唆（2017），勁草書房
- 4 地域医療構想のデータをどう活用するか（2020），医学書院
- 5 ビッグデータと事例で考える日本の医療・介護の未来（2021），勁草書房
- 6 ネットワーク化が医療危機を救う：検証・新型コロナウイルス感染症対応の国際比較（2022），勁草書房

パネリスト

地域包括ヘルスケアを構築するための情報共有のあり方 ～連携推進に向けた上手な IT 活用方法～

高橋 肇

社会医療法人 高橋病院 理事長／特定非営利活動法人 北海道病院協会 副理事長



歯止めのかからない高齢化と、人手不足がますます顕著となった現在、業務の効率化ならびに生産性向上を達成するにはICT化に頼らざるを得なくなっている。その人にとって適切な医療・介護・生活支援サービスが受けられる「地域包括ヘルスケアシステム」を実現するために、どう医療・介護DXをどう取り込めば生活の質や地域の質向上に結びつくのか、医療・介護連携で盛んに謳われている「全国医療情報プラットフォーム」をもとに、情報共有のあり方と「はこだて医療・介護連携サマリー」の活用方法についてご紹介したい。

講師プロフィール

【略歴】

- 1984年 北海道大学医学部卒業後、同大学附属病院循環器内科入局
- 1989年 札幌厚生病院循環器内科医長など複数の医療機関を歴任
- 1996年 高橋病院院長
- 2001年 同病院ならびに社会福祉法人函館元町会理事長
- 2012年 一般社団法人元町会代表理事

【役職】

- 北海道病院協会 副理事長
- 全国老人保健施設協会 常務理事
- 北海道老人保健施設協議会 副会長
- 日本病院会北海道支部 理事
- 道南地域医療連携協議会 副理事長
- 道南脳卒中地域連携協議会 副代表
- 電子カルテCSI社 ユーザ会会長
- 厚生労働省 健康・医療・介護情報利活用検討会構成員
- 厚生労働省 介護情報利活用ワーキンググループ構成員
- 厚生労働省 医療等情報利活用ワーキンググループオブザーバー
- 厚生労働省 標準型電子カルテ検討ワーキンググループ構成員
- 厚生労働省 科学的介護情報システム検討委員会委員含め複数のLIFE関連会議構成員

パネリスト

豊生会全体と地域がつながり合う連携 ～現状と課題、今後の展開～

星野 拓磨

社会医療法人豊生会 東苗穂病院 副院長



当法人はケアミックス病院である東苗穂病院を中心として介護・住まい・福祉を展開し地域包括ケアシステムの構築を目指している。多様なニーズに応える様々な連携の取り組みとして在宅医療の総合ネットワーク「札幌あんしん在宅医療ネットワーク」、食べること・生きることを支援する「飲み込みサポート」を強く推進している。また地域の課題である高齢者救急に対して他医療機関と強く連携することで地域医療を継続させられるように在宅療養支援病院としての役割を果たしている。

それぞれの連携の取り組み、その現状と課題について報告する。

講師プロフィール

【略歴】

2013年から現職

2017年札幌あんしん在宅医療ネットワーク立ち上げ 所長就任

【専門医】

プライマリケア専門医指導医、消化器病専門医、糖尿病専門医、透析専門医

パネリスト

地域包括ケアシステムをささえる ICT ～名寄市の取り組み～

守屋 潔

名寄市立総合病院 情報管理センター センター長／名寄市健康福祉部 参与



名寄市には道北北部医療圏で唯一の救命救急センターである名寄市立総合病院があり、医療圏の中核病院との間で医療情報を共有する仕組みを構築し、主として救急トリアージ、症例コンサルト、病診連携の用途で運用している。令和2年度からは、この医療連携ネットワークを拡張して名寄市内の介護施設、調剤薬局、歯科医院と行政を繋ぎ介護認定を受けた高齢者を支えるための医療介護連携に取り組んでいる。行政が主体となり名寄市の地域包括ケアシステムを支えるインフラとしてICTを活用した点について報告する。

講師プロフィール

【略歴】

- 1985年 東北大学工学部通信工学科卒業
IT系民間企業に勤務
- 2008年 旭川医科大学医工連携総研講座特任教授
- 2020年 名寄市健康福祉部参与
- 2022年 名寄市立総合病院情報管理センター長

パネリスト

過疎地の小病院が地域で果たす役割

藤城 貴教

日本赤十字社 清水赤十字病院 院長



来年に控えた2025年、そして2040年問題へ向けた医療提供体制変革の取り組みが急がれている。かかる問題点は医療と介護のボーダーレス、そして労働力不足、それに伴う医療・介護施設の経営難であり、人口減少と高齢化が進む過疎地ほど著しい。

これらを改善するためには労働集約型の産業構造を少しでも知識集約型に変化させていくことである。具体的には自施設内そして施設間の情報共有を安価かつ迅速に行いステークホルダーの意思決定と実行を早め労働効率を上げることである。無理のない医療DXをはじめ、地域全体で成果が得られるような包括的なヘルスケアとは何かを模索している。

講師プロフィール

【略歴】

1992年	旭川医科大学医学部医学科卒業、内科学第三講座入局
1993年4月	釧路市医師会病院消化器内科
1995年4月	帯広市立病院内科
1996年10月	旭川医科大学第三内科 医員
2000年4月	富良野協会病院内科 医長
2001年4月	旭川赤十字病院消化器科
2007年10月-12月	インドネシア保健医療支援要員（ボゴール赤十字病院）
2008年 5月	清水赤十字病院 消化器内科部長
2009年1月-2月	日本赤十字社緊急医療支援（コレラ）、ジンバブエ共和国
2010年3月-4月	日本赤十字社緊急医療支援（震災）、ハイチ共和国
2011年2月-3月	日本赤十字社緊急医療支援（コレラ）、ハイチ共和国
2013年 9月	清水赤十字病院 副院長 *12月より院長職務代理
2014年1月-2月	日本赤十字社緊急医療支援（台風）、フィリピン共和国
2014年7月	清水赤十字病院 院長
2018年1月	日本赤十字社バングラデシュ南部避難民救援事業視察団
2018年9月	北海道胆振東部地震において日本赤十字社 統括災害医療コーディネーター
2024年3月	能登半島地震において日本赤十字社 統括災害医療コーディネーター

【所属学会等】

日本プライマリケア学会（認定医、指導医）、日本内科学会（総合内科専門医、指導医）、日本消化器内視鏡学会・日本消化器病学会（指導医、北海道支部評議員）、日本医師会（認定産業医）、日本災害医学会（社会医学系専門医・指導医）、インフェクションコントロールドクター（ICD）

座長 藤原 雄介 北海道病院協会 常務理事

医療安全活動の実践 —医療安全文化測定と相互評価を中心に—

長谷川 友紀

東邦大学 医学部 社会医学講座 教授



医療の安全は医療への信頼確保のために必須である。1990年代、医療安全に関して人々の注目を集めた事例が世界中で発生した。その後、医療安全向上のために様々な取り組みが行われてきた。その取り組みを効果的なものとするためには、取り組みの効果の測定・評価が必要である。また、専門家による相互評価は、自院では気が付かない点を指摘してもらうことにより改善につなげることができるとともに、近隣の担当者との面識を得ることで医療連携の強化をもたらすことが期待される。今回は、医療安全活動の実践として、医療安全文化測定、相互評価を取り上げ、概要、注意点、活用に当たってのヒントを紹介する。

講師プロフィール

【略歴】

1985年3月 東京大学医学部医学科卒業
 1985年5月 第79回医師国家試験合格
 1985年6月 東京大学医学部付属病院にて内科研修
 1985年8月 FMGEMS合格(米国医師国家試験)
 1987年6月 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座助手
 1994年2月 医学博士取得(東大乙11649)
 1996年5月 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座講師
 1998年10月 東邦大学医学部公衆衛生学講師
 1999年2月 同助教授
 2005年4月 東邦大学医学部社会医学講座教授

専攻分野：社会医学、公衆衛生学、医療政策学、医療安全学 論文(査読有)220+、著作(編者、共著を含む)100+

【学会の役職(公的委員会活動などを含む、主なもののみ)】

日本医療マネジメント学会 理事、編集委員長、東京支部長
 日本移植学会 評議員、倫理委員会副委員長
 公益財団法人日本医療機能評価機構 執行理事(審査担当)、医療事故収集等事業 総合評価部会長
 公益社団法人全日本病院協会 病院機能評価委員会、医療の質向上委員会、医療安全委員会、個人情報保護委員会、
 病院のあり方委員会各委員
 日本移植コーディネーター協議会 役員
 公益社団法人日本医師会病院委員会 委員
 公益財団法人海外医学生支援協会 理事

【過去のもの(主なもののみ)】

日本医療・病院管理学会 理事 2011-2012年
 公益社団法人日本臓器移植ネットワーク 理事 2012-2015年
 日本移植学会 理事、倫理委員長 2008-2015年
 内閣府総合規制改革会議 専門委員 2001-2004年
 内閣府規制改革・民間開放推進会議 専門委員 2004-2007年
 内閣府規制改革会議 専門委員 2007-2010年
 厚生労働省「診療に関する情報提供等の在り方に関する検討会」委員 2002-2003年

座長 成田 吉明 北海道病院協会 常務理事

病院機能評価 (3rdG:Ver. 3.0) と 実際の評価手法 (カルテレビュー) について

橋本 廸生

公益財団法人日本医療機能評価機構 常務理事



病院機能評価では、その時代に適した審査ができるように定期的に評価項目や評価手法を見直し、改定を実施している。2023年4月からは「病院機能評価 機能種別版評価項目3rdG:Ver. 3.0」の運用を開始した。

当日は、病院機能評価の概要を紹介するとともに、3rdG:Ver. 3.0で新しく追加された、すべての病院で実施される「カルテレビュー」を取り上げ、カルテレビューが導入された経緯、カルテレビューでは何を確認するのか、実際にどのように実施されるのかなどを、カルテレビューの場面を示しながら解説する。

講師プロフィール

【略歴】

- 1975年 3月 東京大学医学部保健学科 卒業
- 1980年 3月 同大学院医学系研究科保健学専攻博士課程 修了
- 1980年 4月 東京大学医学部 助手
- 1995年 4月 国際医療福祉大学 教授
- 2000年 8月 横浜市立大学 教授
- 2008年 4月 財団法人日本医療機能評価機構 執行理事(非常勤)
- 2013年 4月 横浜市立大学 名誉教授
- 2013年 4月 公益財団法人日本医療機能評価機構 執行理事
- 2018年 4月 公益財団法人日本医療機能評価機構 常務理事

【学会の役職(公的委員会活動などを含む、主なもののみ)】

- 日本医療・病院管理学会 名誉会員
- 日本医療マネジメント学会 理事
- 日本看護評価学会 理事
- 日本医療コンフリクト・マネジメント学会 理事

座長 中田 智明 北海道病院協会 常務理事

今こそ、財務の視点から自らの経営状態を自己評価する時
～コロナ後1年間の激動の経営と入院を標的とした診療報酬改定の狭間で～

石井 孝宜

石井公認会計士事務所 所長・公認会計士



40年間にわたって病院経営と向き合ってきた財務専門家として、アフターコロナといわれる令和5年度の病院経営が最も厳しいと感じています。多くの病院が赤字に転落し、その中には減価償却前経常損益が赤字、すなわち経常的資金収支がマイナスに陥っている事例も出ています。毎月の経常収支マイナスとは、手元資金が減少していくことを意味しています。このような状況は過去にはなく、経営の安定性を大きく揺るがす状況といえます。

目の前の資金繰りが、月次で悪化するということはどういうことであるのか、今回はその事例をしっかりと確認します。

また、既に起きている物価の高騰、その中であまりにも顕著な建築コストの値上がりや設備投資において不可欠な資金調達(借入)についても金利上昇の可能性が高まっています。その点についても説明を加えることにより、病院経営を取り巻く極めて厳しい現状の再認識を図ります。

講師プロフィール

石井公認会計士事務所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目1番5号 虎ノ門メトロシティ神谷町3階
TEL 03-5425-7320 FAX 03-5425-7321

【学歴(資格)】

1976年10月 公認会計士第2次試験合格
1977年 3月 明治大学政経学部卒業
1981年 3月 公認会計士登録 第6930号

【職歴】

1977年 3月 扶桑監査法人入所
1982年 4月 公認会計士森久雄事務所入所
1984年 1月 森公認会計士共同事務所主宰、代表公認会計士就任
1996年 7月 石井公認会計士事務所開設、現在に至る

【教員歴】

2001年 4月 文京学院大学・大学院・経営学研究科、客員教授就任
(～2010年3月)

【公職歴】

2003年 7月 厚生労働省・独立行政法人評価委員会・委員[PMDA、WAM等担当](～2009年6月)
2004年 6月 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・診療報酬調査専門組織保険医療専門審査員 [医療機関のコスト調査分科会担当]《非常勤・一般職国家公務員》(～2017年 8月)
2009年12月 厚生労働省・社会保障審議会・臨時委員・年金事業管理部会(～2021年12月)
2010年 4月 独立行政法人国立成育医療研究センター監事(～2012年10月)
2012年 6月 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・診療報酬調査専門組織[医療機関等における消費税負担に関する分科会担当](～2017年8月)

2016年 4月 国立研究開発法人国立国際医療研究センター・監事(～現在)
2022年 7月 茅ヶ崎市立病院経営審議会・委員(～現在)
2001年10月 厚生労働省「これからの医療経営のあり方に関する検討会」委員(～2003年3月)
2003年10月 厚生労働省「医療経営の非営利性等に関する検討会」委員(～2005年 7月)
1991年 4月 社団法人全日本病院協会・参与(～現在)
2003年12月 一般社団法人日本医療・病院管理学会・監事(～現在)
2005年 4月 公益社団法人日本人間ドック学会・監事(～2018年5月)
2006年 2月 一般社団法人日本病院薬剤師会・監事(～2017年5月)
6月 一般社団法人日本病院会・監事(～現在)
公益財団法人日本骨髄バンク・監事(～2016年3月)
2008年 1月 一般社団法人日本医療・病院管理学会・評議員(～現在)
2009年 4月 財団法人日本医療機能評価機構・監事(～2011年3月)
2012年 4月 一般社団法人日本医療法人協会・監事(～現在)
2013年 6月 一般社団法人MEJ(メディカルエクセレンスジャパン)・監事(～現在)
2014年 1月 一般社団法人日本社会医療法人協議会・監事(～現在)
2001年 2月 四病院団体協議会・病院会計準則研究委員会・委員長(～2003年9月)
2006年 5月 公益社団法人日本医師会・医療税制検討委員会・委員(～現在)
2010年10月 社団法人日本医療法人協会医療法人制度・税制部会・部会員(～現在)

【関与医療機関】

病院 約100施設、診療所 約30施設、老健施設・特養施設 約30施設

地域包括ヘルスケアの実現に向けた連携体制の作り方

中野 敬太

株式会社日本経営 札幌オフィス チームリーダー



医療介護を取り巻く環境が変化する中で、診療報酬改定・介護報酬改定においても、地域との連携が求められています。

本セミナーでは、今求められている連携とは どのようなものなのかを地域のデータ等をもとに定義づけをし、その実現に向けて、どのような体制や運用が必要かを、事例に基づき解説致します。

講師プロフィール

株式会社日本経営 札幌オフィス チームリーダー

中小規模の病院から大規模のグループ病院まで、規模や機能を問わず、戦略策定、経営改善、建替え、経営管理体制の構築等、多岐に渡るコンサルティングを実施。

病院が地域に求められる役割や機能、目指したい方向性を踏まえ、データ分析に裏打ちされた根拠に基づき、現場の業務プロセスの改善に落とし込むことに強みを持つ。

医療機関に求められるウイルス肝炎対策：C型肝炎を含めて

坂本 直哉

北海道大学大学院医学研究院 内科学分野 消化器内科学教室 教授



B型、C型ウイルス性肝炎は慢性肝炎、肝硬変、肝癌の主たる原因のひとつであり、日本の国民病としてこれまで様々な肝炎対策が行われてきた。C型肝炎は、かつては輸血、医療行為、近年は鍼治療、刺青により感染が伝播し、多くの慢性肝疾患患者が存在していたが、現在経口抗ウイルス薬（DAA）が登場し、ほぼすべての症例で副作用なく、確実にウイルス駆除が可能になっている。B型肝炎に対しても核酸アナログ薬の継続投与により、ウイルス増殖を抑制、肝炎の進展を抑止することが可能となり、母子感染、水平感染を予防するワクチン接種も普及している。

本セミナーでは、国の肝炎対策基本法に基づいた様々な治療、検査費助成制度、市中での感染者の拾い上げと治療勧奨、院内でのウイルス肝炎検査結果の報告義務、薬剤によるB型肝炎再活性化予防措置など、自治体、医療機関で必要とされる肝炎対策について解説する。

講師プロフィール

【略歴】

1987年3月 東京医科歯科大学医学部医学科卒業
 1987年4月 東京医科歯科大学第二内科入局
 1988年6月 横須賀共済病院内科
 1989年6月 土浦協同病院内科
 1994年2月 米国コネチカット州立大学医学部リサーチフェロー
 2001年4月 東京医科歯科大学消化器内科助手
 2006年4月 同、分子肝炎制御学講座准教授
 2012年3月 北海道大学大学院医学研究院消化器内科学教室教授
 2019年4月 北海道大学医学研究院院長補佐（～2021.3）
 2020年4月 北海道大学病院栄養管理部長

【学会等】

日本内科学会（評議員、総合内科専門医、指導医）、日本癌学会、日本消化器病学会（前理事、専門医、指導医）、肝細胞研究会（世話人）、日本肝臓学会（理事、専門医、指導医）、肝類洞壁細胞研究会（世話人）、日本消化器内視鏡学会（支部評議員、専門医、指導医）、日本肝移植研究会、日本消化器関連学会機構（JDDW）（社員）、日本胆道学会、日本抗ウイルス療法学会（理事）、日本腎臓学会、日本肝臓研究会（社員）、日本大腸肛門学会、日本消化器免疫学会（理事）、日本超音波医学会、日本高齢消化器病学会（理事）、日本アブレーション研究会、日本医師会（認定産業医）、日本ウイルス学会、日本肝がん分子標的治療研究会（世話人）
 American Association for the Study of Liver Diseases (International member)、American Association of Microbiology (International member)、The Asian Pacific Association for the Study of the Liver (member)

【Journal editor】

・ Journal of Gastroenterology 副編集委員長 (2013-2017)
 担当理事 (2017-2023)
 ・ Hepatology Research 編集委員、副編集委員長 (2016-)

・ Journal of Gastroenterology and Hepatology, associate editor (2016-)
 ・ JMA Journal, associate editor (2018-)
 ・ Plos One associate editor (2014-)
 ・ Antimicrobial Agents and Chemotherapy, editorial board (2014-)
 ・ Hepatology International, editorial board (2014-)
 ・ 肝胆膵 編集委員 (2008-)

【省庁関係】

・ 日本医療研究開発機構 肝炎等克服実用化研究事業 研究代表者 (2017-)
 ・ 日本医療研究開発機構 B型肝炎創薬実用化等研究事業 研究代表者 (2022-)
 ・ 日本学術振興会特別研究員審査会専門委員

【受賞歴】

2002年 第9回国際科学振興財団フォーラム研究奨励賞
 2003年 第5回肝病態・治療研究会研究奨励賞
 2004年 ウイルス肝炎研究財団研究奨励賞
 2004年 日本肝臓学会・冠アワード
 2005年 日本消化器病学会研究助成
 2005年 第12回国際科学振興財団フォーラム研究奨励賞
 2005年 Liver Forum Kyoto研究奨励賞
 2006年 宮川庚子研究財団研究助成
 2011年 日本肝臓学会研究奨励賞
 2014年 日本肝臓学会機関誌High Citation賞
 2020年 北海道大学教育研究総長表彰
 2021年 日本肝臓学会織田賞
 2023年 北海道医師会賞・北海道知事賞

医療業界におけるRPA適用の可能性

村山 典久

一般社団法人メディカルRPA協会 理事



2024年4月から医師にも労働基準法の超過勤務時間の上限規制が適用されることとなった。

また、国内、特に地方の医療機関では深刻な人手不足に直面しており、対策は急務である。一方で、医療機関は地域における社会基盤として継続的に質の高い医療を確保していくことが望まれている。

昨今、上記のような労働力上の課題を解決する手段の一つとして、人手に頼るだけでなく、デジタルレイバー＝RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の活用の可能性が着目されはじめている。

当協会ではクリニックから大病院に至るまで既に100を超える医療機関におけるRPAの取組み事例を集約しており、今回、できる限り、幅広く当該事例を紹介させていただく。

講師プロフィール

【略歴】

- 1991年 アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア株式会社）入社
- 1996年 アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア株式会社）金融部門 マネージャー
- 1998年 アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア株式会社）金融部門 シニアマネージャー
- 2004年 国立大学法人滋賀医科大学 経営等担当理事
- 2012年 国立大学法人滋賀医科大学 学長補佐
- 2013年 アクセンチュア株式会社 ヘルスケア事業部門 日本統括マネージングディレクター
- 2015年 学校法人慈恵大学 学長アドバイザー（現在）
- 2017年 スカイライトコンサルティング株式会社 事業開発特別顧問（現在）
- 2019年 RPAテクノロジーズ株式会社（現オープン株式会社）顧問（現在）
- 2019年 celonis株式会社 Sales Executive
- 2023年 株式会社arinos エグゼクティブアドバイザー（現在）
- 2023年 株式会社ステージ エグゼクティブアドバイザー（現在）
- 大学マネジメント研究会 参与（現在）
- 国立大学法人東北大学 大学教育支援センター共同利用運営委員会 運営委員



特定非営利活動法人

北海道病院協会

〒060-0042 札幌市中央区大通西 6 丁目北海道医師会館 6 F
Tel. 011-231-9900 FAX. 011-231-9902

<http://www.hoha.jp/>